

資料編 1 子どもの読書活動に関するアンケート調査

令和6年3月

犬山市教育委員会

子どもの読書活動に関するアンケート調査

1 アンケート調査の目的及び概要

第二次犬山市子ども読書活動推進計画の改定に向け、家庭や地域での子どもの読書活動の現状や実態を把握するため、令和5年8月に市内の小学5年生、中学2年生、就学前の5歳児の保護者を対象に「子ども読書活動に関するアンケート調査」を実施しました。このアンケートは、第二次犬山市子ども読書活動推進計画の策定に伴い実施したアンケート（平成30年）との比較をするため、質問内容及び対象を同様としました。

<各年度調査回答数（回答率）>

| | 小学生 | 中学生 | 園児保護者 |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| 平成30年度 | 687人 (91.8%) | 571人 (87.6%) | 210人 (71.7%) |
| 令和5年度 | 585人 (95.1%) | 504人 (75.2%) | 101人 (36.1%) |

2 前回からの変更点

前回調査はアンケート用紙を市内小中学校及び子ども未来園を通じて対象者に配布・回収しましたが、今回はあいち電子申請システムを利用しました。すべて回答必須項目としたため、前回調査では「無回答」の回答率も掲載していますが、今回調査では「無回答」はすべて発生しないようになっています。

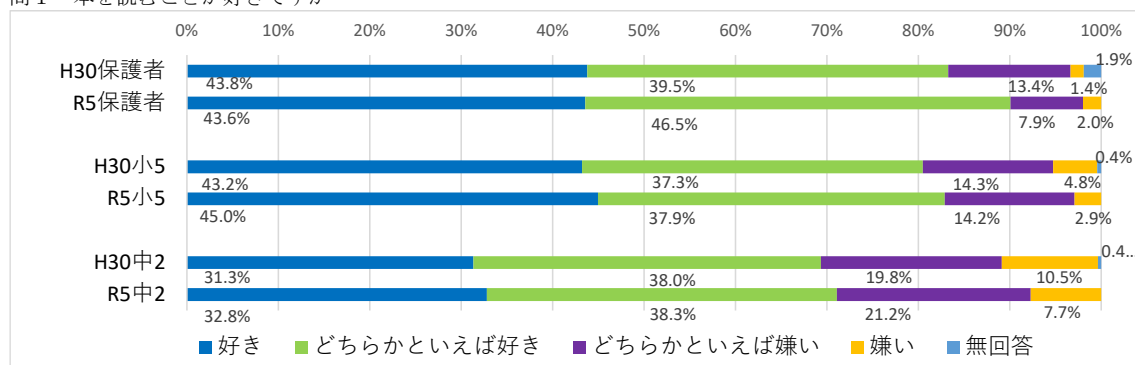
3 現状と課題

(1) 読書に対する意識

「本を読むことが好きですか」という質問に対して、「好き」、「どちらかといえば好き」と答えた割合は、平成30年度の数値と比較すると園児保護者が83.3%から90.1%、小学生が80.5%から82.9%、中学生が69.3%から71.1%と増加しています。

反対に「嫌い」、「どちらかといえば嫌い」と答えた割合は、園児保護者が14.8%から9.9%、小学生が19.1%から17.1%、中学生が30.3%から28.9%にやや減少しています。ここから前回調査よりも読書に親しみをもち割合が増えていることがわかります。

問1 本を読むことが好きですか



(2) 読書の頻度

「本を読みますか」という質問に、「よく読む」「ときどき読む」と答えた割合は、平成30年度の数値から比較すると、園児保護者は78.6%から81.2%、小学生79%から78.8%、中学生58.8%から58.3%とほぼ横ばいで推移しています。

反対に「読まない」「ほとんど読まない」と答えた割合は、園児保護者が19.5%から18.8%、小学生20.7%から21.2%、中学生40.8%から41.7%とほぼ横ばいであるものの、小中学生に関しては微増しています。

読む理由の質問には「楽しいから、おもしろいから」が一番多く、次に「いろいろなことがわかるから」であるのは平成30年度と同様です。

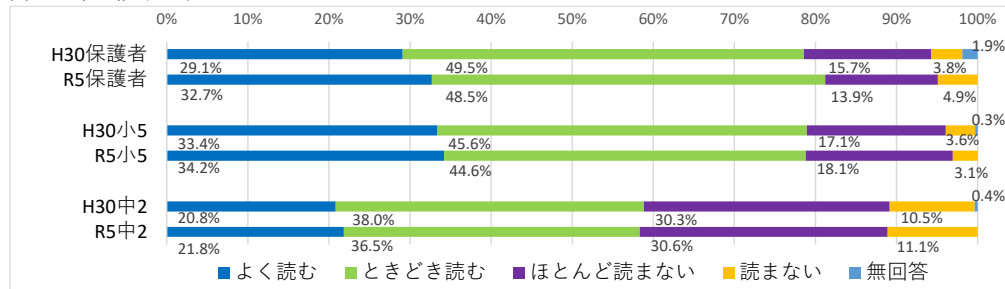
読まない理由の質問には、小学生は「テレビやゲームなど他の遊びが楽しいから」が平成30年度よりも上昇しており、小学生が22.7%から28.2%となっています。次に「文章を読むことが苦手だから」の答えは前回調査とほぼ横ばいですが、26.5%から26.9%と微増しています。中学生は「テレビやゲームなどほかの遊びが楽しいから」が24.7%から31.6%へと増加しており、次に「読みたいと思う本がないから」が24.1%から27.8%へと推移しています。

小学生も「読みたいと思う本がないから」と回答する割合が19.3%から24.9%へと増加しており、子どもたちが読書についての関心を高めることができるような施策が重要であることがうかがえます。

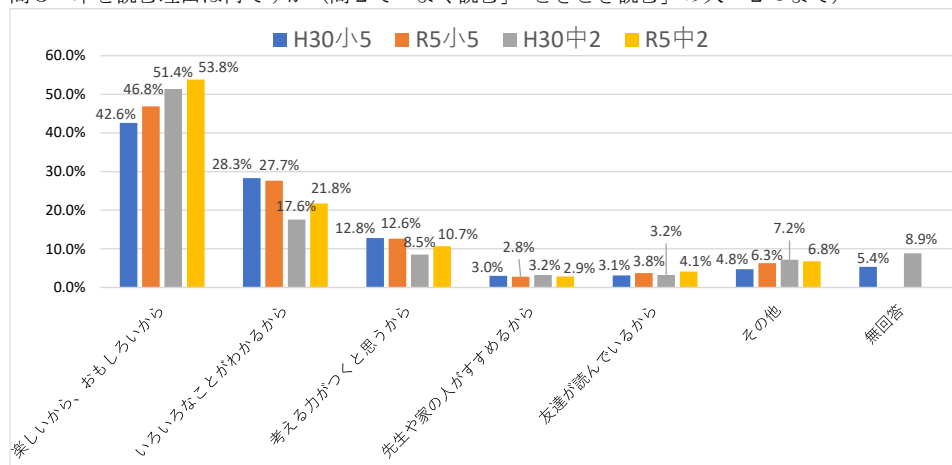
多くの子どもは本を読むことが好き、本を読む方であるという答えが多いですが、その割合は年齢が上がると減少しています。

本を読む理由、読まない理由から、楽しいと思える本、読みたいと思える本との出会いの機会が減少した子どもや、文章を読むことが苦手とする子どもにとっては、読書に代わり、前回調査時点よりもさらにテレビやゲームが手軽に楽しめる身近な存在となっています。

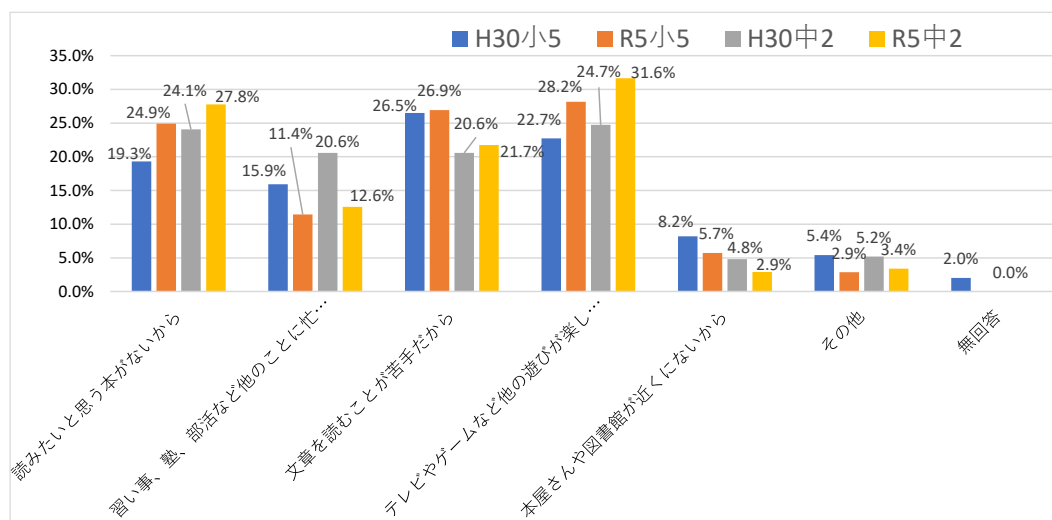
問2 本を読みますか



問3 本を読む理由は何ですか（問2で「よく読む」「ときどき読む」の人 2つまで）



問4 本を読まない理由は何ですか（問2で「ほとんど読まない」「読まない」の人 いくつでも）



(3) 読書の量

「6月の1か月に何冊の本を読みましたか」という質問に、3冊以上読む割合が小学生は78.4%、中学生は41.1%でした。

平成30年度は同様の質問に対し、小学生79.8%、中学生39.4%のため、ほぼ同じ割合で推移しています。

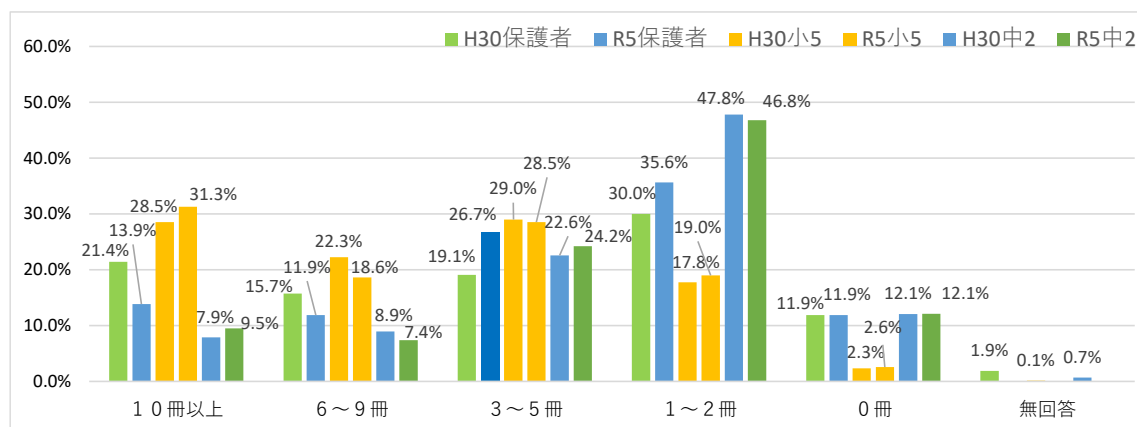
「0冊」（1冊も本を読まない不読率）は、園児保護者11.9%、小学生は2.6%（全国6.4%、県10%）、中学生は12.1%（全国18.6%、県16.7%）でした。

不読率は平成30年度において園児保護者11.9%、小学生2.3%、中学生12.1%のため、前回調査とほぼ同じ割合で推移しています。

読書は一概に冊数で推し量るべきではなく、楽しむために使える自由な時間が減っている子どもたちにとっては、むしろ1冊であっても、その読書の質が高く、本の内容が良いものであれば、本と向き合う時間が少しでもあることは評価すべき点であると思われます。

課題は全く本を読まない子どもの数「不読率」を減らすための施策を引き続き行うことであります。不読率の低減には、就学前からの読み聞かせ等の促進や探究的な学習活動等での図書館の活用促進を行っていく必要があります。

問5 6月の1か月間で何冊の本を読みましたか



(4) 家庭における子どもの読書活動

「家の人に本を読んでもらったことがありますか」との質問に、「よくあった」「ときどきあった」と答えた割合は、平成30年度は小学生50.7%、中学生48.2%であったのに対し、小学生52.1%、中学生45.8%でした。

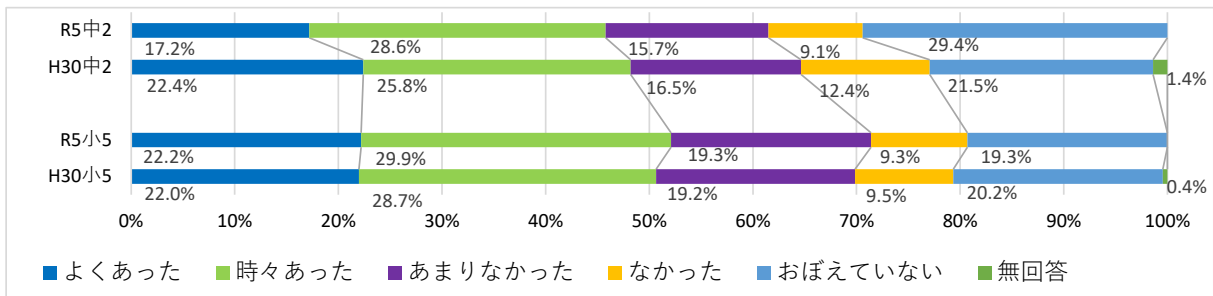
反対に「あまりなかった」「なかった」と答えた割合は、平成30年度小学生28.7%、中学生28.9%に対し、小学生28.6%、中学生24.8%でした。

園児保護者に対しては、「お子様に読み聞かせをすることや、一緒に読書をすることがありますか」との質問に、「ほぼ毎日」「週に3～4回」との答えが平成30年度は28.6%だったのに対し、今回調査では40.6%となっており、「週に1～2回」が43.3%から44.6%、「ない」が26.7%から14.8%に変動しています。これらから前回調査時点よりも読み聞かせを行う保護者が増加していることがうかがえます。

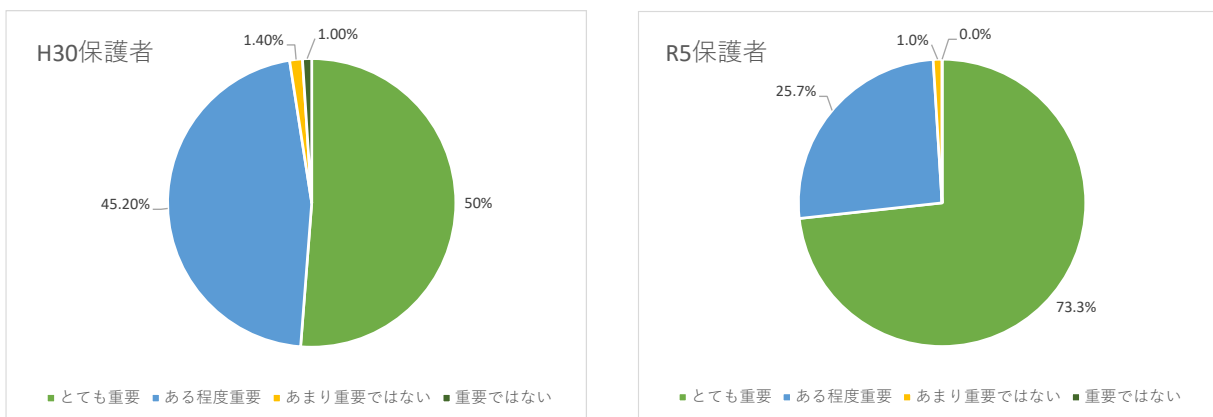
また、園児保護者は「読書、読み聞かせは子どもの健やかな成長に重要であると思いますか」との質問には、平成30年度は96.6%だったのに対し、99.0%の保護者が「とても重要」「ある程度重要」と答えています。

保護者が、子どもに読み聞かせをすることで、子どもの成長にどのような良い効果や良い影響を与えるのか、また読み聞かせの方法や、読ませる本の選書についてもわかりやすく理解できる機会や情報の提供をすることが引き続き重要であります。

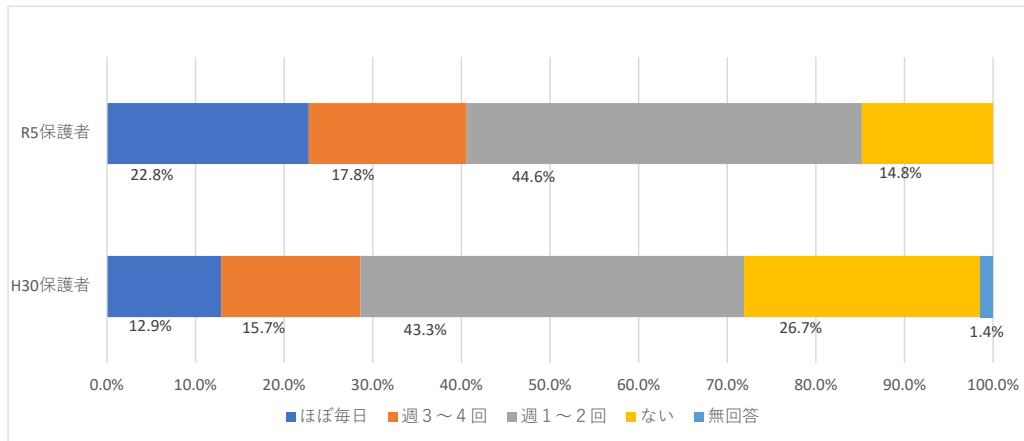
問6 家の人に本を読んでもらったことがありますか



保護者問4 読書（読み聞かせ）は子どもの健やかな成長に重要であると思いますか



保護者問5 現在、お子様に読み聞かせをすることや、一緒に読書をすることがありますか



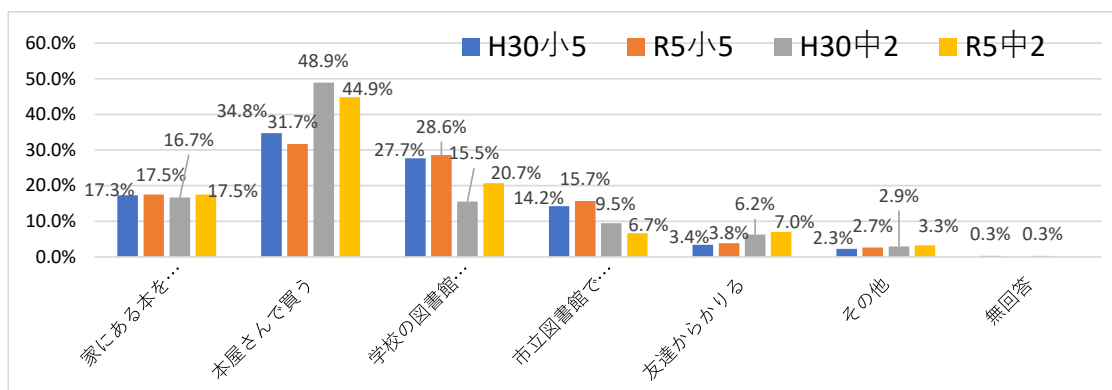
(5) 図書の入手

「読みたい本をどのようにして手にしていますか」との質問に、小中学生とも平成30年度に引き続き「本屋さんで買う」と答えた割合が一番多く、次に「学校の図書館でかりる」「家にある本を読む」でした。読みたい本は、学校図書館や市立図書館よりも書店で探し入手していることがうかがえます。

中学生のニーズを捉え、中学生が読みたい本を図書館から中学生に届ける方法の工夫が必要ですが、単にニーズを満たす本ではなく、子どもたちの読書活動にとって良いとされる本を薦めることが図書館の大きな役割であり、その選書や選書した本を薦めるアプローチの方法が課題といえます。

また、「友達からかりる」と答えた割合は低いながら、小学生に比べ中学生は増えており、中学生になると本を通したつながりができているようです。こうした特徴を上手く利用した施策も効果的であると思われます。

問7 読みたい本をどのようにして手にしていますか（2つまで）



(6) 選書

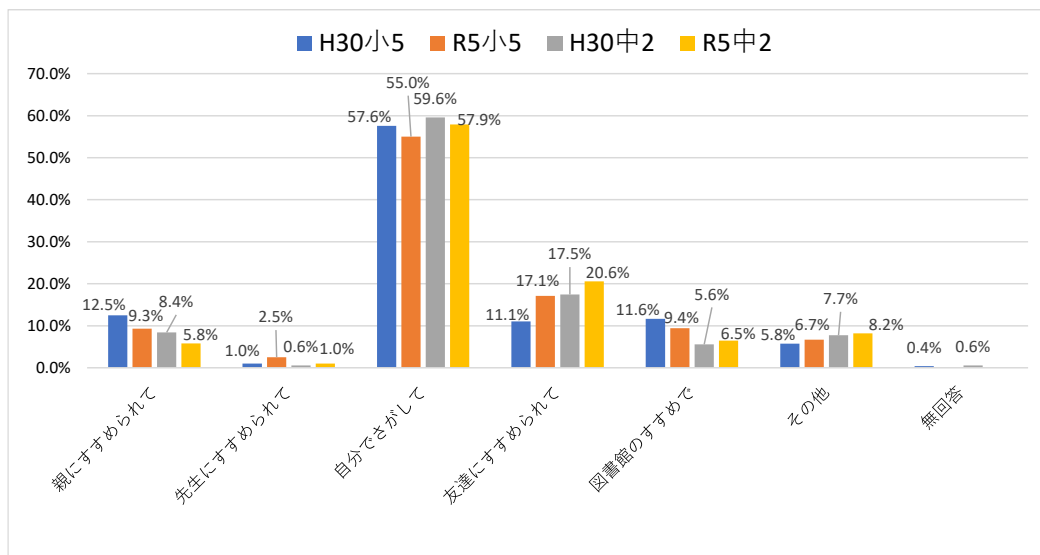
「読む本をどのように選んでいますか」との質問に、「自分でさがして」と答えた割合が前回調査と同様に一番多く、小学生55%、中学生57.9%でした。次に割合が高かったのは「友達にすすめ

られて」の小学生17.1%、中学生20.6%でした。子どもたちの半数以上は読む本を「自分でさがして」選んでいます。

また、「友達にすすめられて」と答えた人が前回調査より増加していることから、前述したように、本を通したつながりや他者からの影響を受けやすい様子がうかがえます。

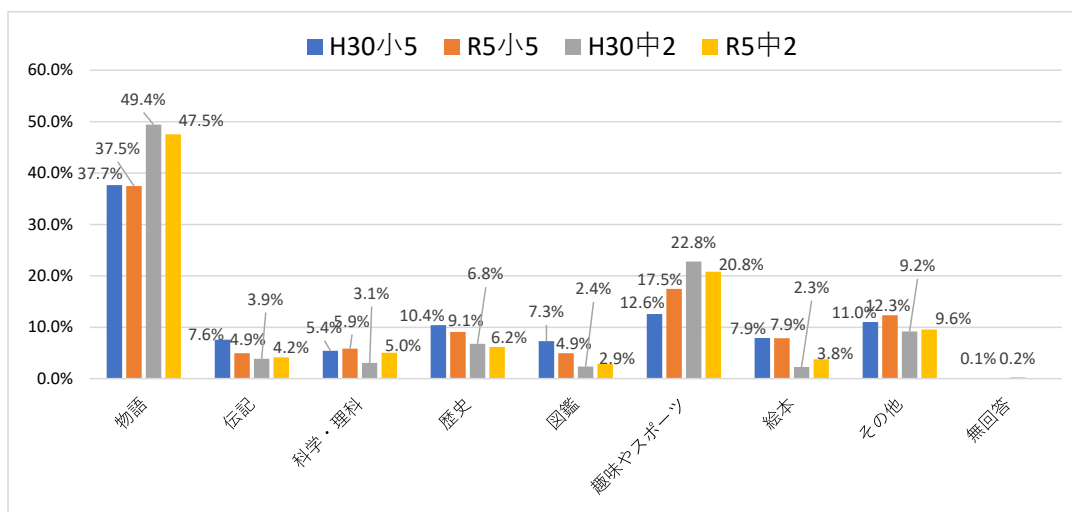
選ぶ本が自分の好みや楽しいものばかりに偏ることなく、子どもたちの成長段階（読書活動）に適した選書となるよう、図書館や学校がその知識と情報を与え導いてゆくことが大切です。

問8 読む本をどのように選んでいますか（2つまで）



「どんな本を読んでいますか」との質問に対しては、「物語」と答えた割合が、小学生37.5%、中学生47.5%と平成30年度に引き続き最多でした。次に「趣味やスポーツ」と答える割合が小中学生ともに多くなっています。また、子どもたちが本を読む理由は、「楽しいから、おもしろいから」が一番多く、そのニーズは物語に多いことがうかがえます。

問9 どんな本を読んでいますか（2つまで）

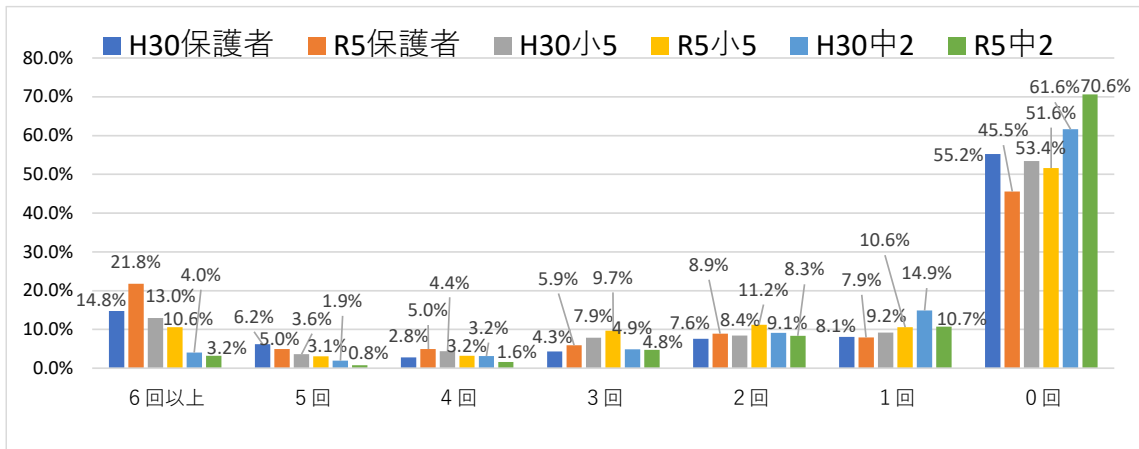


(7) 図書館の利用

「(4～6月の3か月間) 市立図書館を何回利用しましたか」の質問に対して、前回調査に引き続き1番多い答えが「0回」でした。前回調査では園児保護者55.2%、小学生53.4%、中学生61.6%だったのに対し、園児保護者45.5%、小学生51.6%、中学生70.6%とほぼ変わらず高い数値を示しています。特に中学生は前回調査よりも割合が増えていることがわかります。「3回」以上と答えた割合は、前回調査から小学生が28.9%より26.6%、中学生が14%より10.4%に減少しています。

まず、図書館に来館する機会を増やすための方策が子ども読書活動推進の第一歩です。

問10 4月から6月の3か月間に市立図書館を何回利用しましたか



園児保護者に「子どもの読書推進のために市立図書館に希望することはありますか」との質問に対し、「子ども向けのイベントの開催」が28.7%と前回調査と同様一番割合が多く、「読書ができる場所」24.3%、「蔵書の充実」21.8%、「読み聞かせ会の開催」16.8%の順でした。順番の変動はあるものの、前回調査とほぼ同様の要望が挙げられています。

子ども向けのイベント等の充実と関連情報の発信、親子でゆっくりと読書ができる環境を整えることが大切であります。

保護者問7 子どもの読書推進のために市立図書館に希望することはありますか(複数回答可)

